

来場者と出展社を持続的につなぐ

# LINE 登録システム導入

この来場者はもとより、出展社にとっても「朗報」です。

PHOTONEXT2026 の出展オプションとして、QRコードと LINE を活用してブース情報を届けする仕組みを用意。これにより来場者と出展社が新たな接点を持ち、持続的なメリットをもたらす仕組みを想定しています。

このシステムは、極めてシンプルな仕組みです。来場者による簡単なアクションにより、出展社にとって価値あるデータに変わります。具体的には、まず来場者はブースの QR コードをスマホで

読み取ります。これにより出展社は、どうしても紙で渡したい資料は別として、従来のようにかさばってしまいがちな資料を渡す手間がなくなり、来場者にとっても重たい資料を受け取る必要がなくなります。

来場者が QR コードをスキャンすると、カードメッセージが瞬時に提供されます。カードは 3 枚まで設定可能で、写真やテキストを含めることができます。遷移ボタンを通じてカタログ PDF や EC サイト、SNS アカウントへの誘導が可能。フォロー申請を促すこともできます。

カード配信することで、来場者にその後の行動を促すことができる、出展社にとって「PRしたいリッチコンテンツをダイレクトに提供できる」「来場者の記憶



ブースにて QR コードで LINE 登録することで、さまざまな情報が得られる。帰りの電車でも確認が可能に（写真はイメージ）

[使用システム概要] 社名 : findout, inc / 商品名 : SAKINA CDP



に残り、いつでもブース出展内容などを振り返ることができる状態を作れる」「SNS アカウントの追加で、その後も個別な機会を創出できる」といったメリットが得られます（なおブースでの名刺交換については、今回想定しているシステムでは QR コードを読み込んだだけでは行なえませんのでご了承ください）。

来場者のスマホには、LINE カー

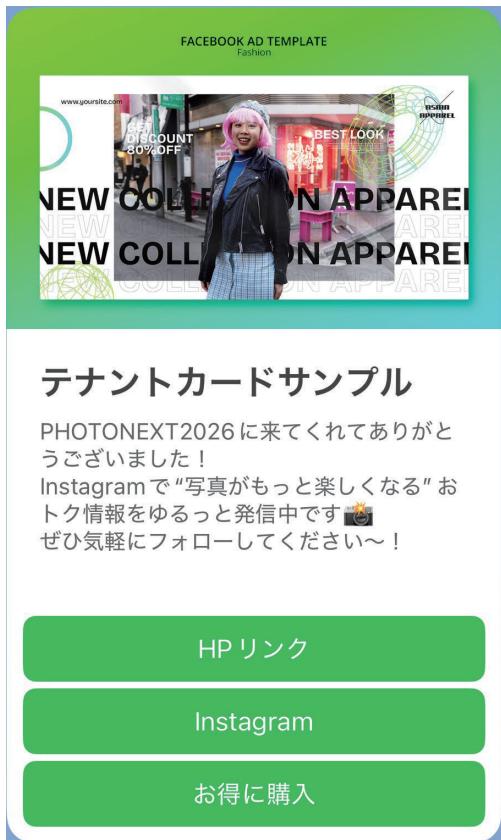
ドが飛んできます。スマホで何度も見返すことができます。カードには、たとえば「資料 PDF」「EC サイト」「公式 SNS」の 3 つを作り、来場者がそれぞれタップすることで、資料やパンフレットの PDF 送付、EC サイトでの購入機会を創出、SNS での継続的なつながりが得られます。フォローを促すことで、より効果的に運用できます。

### 【お得な登録特典も?!】

新公式 LINE アカウント  
ぜひ登録してください!

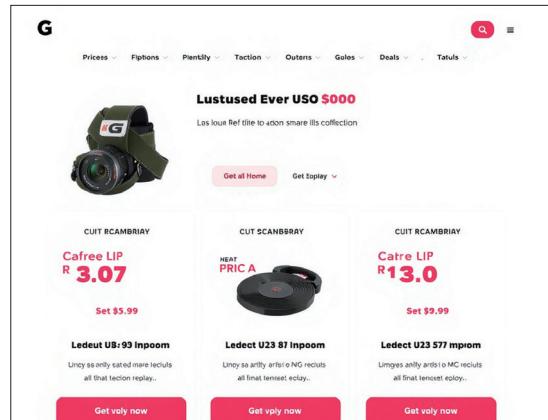


## 画面遷移イメージ

**【POINT】**

来場者のスマホにLINEカードが飛んでくる。  
スマホなので、後に見返すことも可能だ。

- ① 資料やパンフレットをPDFで送付
- ② ECサイトにてご購入いただく機会を創出
- ③ SNSで顧客と継続的なつながりを！

**点で終わらせず  
「線」にするために**

さて主催者では、新たな仕掛けとして各ブースに来場者を送客できるようなエンゲージメント企画も検討しています。もちろん、これには来場者のメリットも含まれます。まだアイデアベースですが、たとえばアウトレット割引クーポンの発行や公式およびセミナー講師関連グッズ進呈などを考えていました。詳細は決まり次第、公式サイトにて発表します。

LINEで完結するスタンプラリーとして、LINEで友達登録→対象ブースを巡回→QRコードのタッチでスタンプ獲得→スタンプ数に応じて抽選、といった仕組みを想定。運営にあたり、多少の変更は出てくるかもしれません、目標としているのは、これまでの

**PHOTONEXT**をさらにグレードアップすることです。

まとめますと、この新しいソリューションを導入することで出展社にとっては、①リッチコンテンツによる高い訴求力（紙資料の負担削減と、写真やテキストなどリッチコンテンツの即時提供。ブースでの接触機会を最大限に活用）、②イベント後も機会創出（カードの遷移ボタンを活用し、SNS/ECサイト等への誘導を促進。来場者がいつでも見返すことができる状態を作れるので、長期的な機会創出に貢献）、③主催者連携による集客ブースト（開催前からの効果的な潜在顧客へのアプローチ）といったメリットがあります。

このシステムの開発元である株式会社ディアーズ・ブレインホールディングスとは、前回の

**PHOTONEXT**でもコラボレーションし、2026での運用にあたりトライアルで実施したケースがあります。主にはアウトレットコーナーにて、出展社が販売商品を追加した際に、来場者へプッシュ通知するという仕組みを構築しました。

準備期間が短く、LINEアカウントを新たに作って友達登録してもらえるようにしたタイミングは会期中でした。受付やアウトレットの待機列などに、QRコードを印字したサイン看板を立てて登録を促しましたが、会期中だけで数百人に上りました。受付やアウトレット、セミナー会場など、人が集まったり通りがかったりする場所にビーコンと呼ばれる小さな端末を設置。LINE登録をした来場者は、そこから発信される情報をキャッチしてスマホにプッシュ通

知される仕組みを作ったのです。次回もこの仕組みを活用してアウトレット出品情報のほか、企画コーナーやセミナーイベントなどに関するアナウンスもタイムリーに発信する予定です。

出展社にとってデータをうまく活用することで最高の成果を出せるように、そして来場者にとってはタイムリーな情報を会期中はもとより終了後もつながるようにすることを目的としています。

**PHOTONEXT2026**を点で終わらせず、線にするために。公式LINE登録は、会期前にQRコードにて行なえるように順次準備を進めてまいります（**お得な登録特典も用意する予定です**）。公式サイトやインスタをはじめ公式SNSにて情報を発信いたしますので、今後もご確認ください。

# 出展社 INFO

## 卒業アルバムにさらなる付加価値アップ



スクールフォト市場向けに新しいフォトブック提案としてリリースされた「フォトぶっくる」

「みんなで誰かにフォトブックを贈りたいときに最も便利なサービス」を目指し、このほど新しいフォト関連Webサービスとして「フォトぶっくる」をリリースした株式会社バリューブリッジ。寄せ書きの「アルバム版」といったイメージのフォトぶっくるは、写真とメッセージで贈る記念品となるため、寄せ書きよりも一層伝わる1冊に仕上がる事から「卒業式にて生徒から先生へのサプライズとして」「同窓会で恩師にプレゼント」など、すでに幅広い用途で活用されているようです。

送別や謝恩、お祝い、応援など、人生のさまざまなシーンで利用されるフォトぶっくる。とくに謝恩は、スクール市場にも大きなニーズがあります。たとえば「小学校の卒業式にて、生徒たちから担任に感謝

の記念品として」「先生、私のこと忘れないでね」と顔写真付きのメッセージを添えて贈るというニーズが生み出される可能性も見込まれます。

卒業アルバムとは別に、クラス単位で先生に『お世話になりました』という気持ちを込めたり、部活の退団式にて卒業生からコーチへの謝恩として、フォトブックにして贈ることに新たな価値を見い出すことができそうです。

### 謝恩フォトブックを作って承認・称賛、離職抑制やエンゲージメントに効果大

このフォトぶっくるは、昨今の「教師を取り巻く現状」を踏まえると、提供することに大きな意義があるとも考えられます。

教師という仕事は、大きなやりがいがある一方で、業務負担や

精神的ストレスが高い職種であることが各種調査から指摘されています。近年は、教師の定着や働き続けやすい環境づくりが学校経営上の重要なテーマとなっています。文部科学省の調査によると、精神疾患で休職の職員が7,000人超に上り、2割が退職しているという現状が浮き彫りになっているようです。

こうしたなかで注目される視点として、「感謝や承認が与える影響」を考えてみましょう。教師を対象とした研究では「生徒や周囲から感謝・評価されていると感じること」「自身の仕事が誰かの役に立っていると実感できること」が、仕事満足度の向上や精神的な消耗感の軽減、さらには「辞めたい気持ち」の低下と関連していることが報告されています。つまり承認や称賛は、離職抑制やエンゲージメントに効果です。

フォトぶっくるで生徒たちから、集大成として最終的に謝辞が贈られるというのは、先生たちにとって嬉しいことです。学校側にとつては、先生たちのやりがいを生み出すための1つのツールとして、そこに予算を組んで活用する価値は十分にあると考えられます。

写真館側がその意図を汲んで学校側に提案することが教育現場の未来に左右するといつても、さほど大げなことではないでしょう。

また、フォトぶっくるにはもう1つ、反響のあるポイントが挙げられます。フォトぶっくるでは、原

稿収集機能として活用することも可能で、園児別や生徒別ページを一括収集でき、共通ページの入稿データに個別挿入することで付加価値の高い卒業アルバムを提供できます。

こうした機能を活用して、たとえば「フォト文集」という新しい商材に活用することも可能。文集に写真が添えられる画期的な商品として提案できます。

クラスや学年単位で各生徒から原稿を集める仕組みとなります。写真も入る新しい価値の提案につながるだけでなく、教師の負担軽減にもなり、さらには生徒のICT教育の一環としても効果を発揮します。

フォトぶっくるでは、生成された入稿データをダウンロードできる印刷担当やメーカー用の画面も用意されているので、手軽に付加価値の高い商品を作れます。至れり尽くせりの仕組みを実装したフォトぶっくるは、スクールフォト市場に、新たな旋風を巻き起こしそうです。

卒業時の「謝恩」を学校予算で、教師満足度と学校価値を高める取り組みとして、写真館やアルバム印刷会社に注目いただきたい詳細内容を、主催者の株式会社プロメディアが発行する月刊誌「スタジオNOW」2026年2月号に掲載。こちらと合わせて、ぜひご確認ください。

さらに詳しい問い合わせは、株式会社バリューブリッジまで (info@value-bridge.me)。



フォトぶっくるの活用イメージ

# NEXT INFO



## 《PHOTONEXT 情報満載の月刊誌》

撮影ビジネスの現場からいまを伝える情報誌「スタジオ NOW」。最新トレンドのほか、会期に向けて企画コーナーや出展社ブース、セミナープログラムの詳細などをお届けいたします! (写真は2026年1月号表紙)

# PHOTO NEXT 2026

フォトグラファーズ & フォトビジネスフェア

2026年6月16日(火)～17日(水)

パシフィコ横浜 B ホール

[www.photonext.jp](http://www.photonext.jp)

主催: 株式会社プロメディア

主催団体: 日本フォトイメージング協会

一般社団法人日本写真映像用品工業会

特別協賛: 日本営業写真機材協会

## 次号予告

# 新規出展ブース紹介

そのほかも注目ポイント満載!!

- ① 「AI ×フォトビジネス」コンセプトゾーン
- ② 「フォトフェューネラル」関連プログラム
- ③ New企画作品展、ほか

## 主要スケジュール

- ◎第1次申し込み締め切り: **1月30日(金)**
- ◎最終申し込み締め切り: **2月27日(金)**
- ◎出展社説明会 / 小間割抽選会: **3月27日(金)**
- ◎搬入日: **6月15日(月)**
- ◎会期: **6月16日(火)～17日(水)**

## 公式サイト随時更新いたします!!

- ・会場マップ、出展社ブース、セミナープログラムなど、最新情報は公式サイト (<https://www.photonext.jp>) へ。会期に向けて更新いたします
- ・2026開催概要、出展に関わる重要事項説明書、出展申込書、前回レポートは、今秋よりトップページからダウンロードできるように準備いたします。通信誌「NEXT INFO」のバックナンバーもご覧いただけます。



**NEXT INFO** ②

- 本冊子はPHOTONEXT関連トピックをまとめた通信誌です。
- すっかり寒くなっています。外出が億劫になりがちですね。オンラインではさまざまな情報が飛び交っています。収集の仕方は人によってさまざまですが、

PHOTONEXTではリアル展示会ならではの価値ある内容をお届けいたしますので、ぜひ会場へお越しください。  
● PHOTONEXTに関するお問い合わせは主催事務局まで (TEL: 03-6302-0801、メール: [info@photonext.jp](mailto:info@photonext.jp))